

モナリト 赤城明神祠跡 寺後ノ山上ニアリ社ハ近キ年廢

長井寺 除地三段八畝六歩長井寺ニアリ瑞龍山ト號ス是モ天正寺未開基ハ北條氏照居士ト云ヒ妻女ノ法名瑞龍院殿願領妙珠大姉ト唱フヨリテ彼夫婦ノ法號ヲ用ヒテ寺ノ山號トナセリ開山廣庵禪師天正元年六月六日示寂ス本尊釋迦ノ坐像長八寸五分客殿ニ安置セリ

清涼寺 除地一段二畝二十四歩羽生ニアリ金澤山ト號ス天正四小祠ニアリ

長泉庵 除地一段二畝八歩水ノ口ニアリ此下ノ三庵モ天正寺ノ末ナリ石經山ト號五問二尺三寸三間寺寶二十王ノ坐像十幅アリ水帳ニ

光珠庵 除地一段五畝九歩同所ニアリ軍地藏客殿ニ安置ス

玄珠菴 除地一段七畝九歩玉ノ内ニアリ圓通山ト稱ス開山雲村龍和尚慶長十四云客殿ニ安置ス

西福寺 境内凡千坪北原ニアリ新義具言宗山城國宇治郡醍醐山報恩院末登覺山年三月五日示寂スト云ハ古刹ナルコトハ論ナレト云リ

本尊トス 庫裡三間ニ 什物 不動畫像一幅 筆智燈大師ノ 波切不動畫像一幅 法大師ノ 四所明神畫像一幅 慶秀僧都 天滿宮畫像一幅 觀音畫像一幅 古奇ナ

詳トモ筆者 五大尊不動畫像一幅 慶秀僧都 長刀一振 穂ノ長一尺五寸 柄ノ長六尺 天正十一年北條氏照八王子ノ城ニオヒテ怨敵退散ノ爲メ青梅高轉兩金剛寺及ヒ當寺ノ兩上人ヲ請待シテ祈禱セシメトキ俄ニ寄手攻來リホトノ不落城

モ其時本尊トナシタ 纏一口 傳來ノ貞家カ作ル所ナリ 其 經藏 本堂ノ西 樓門 並

コアリ二間ニ一問半正徳二年鑄造ノ鐘ヲカ 彌陀堂 本堂ハ長徳年中ノ起立ナリ

光明院 除地三段細尾ニアリ頤學山ト號ス村内西福寺末ナリ本堂ハ南向ニテ六間

示寂開基 寶物 不動畫像一幅 智燈大師 十三佛畫像一幅 筆智燈大師 鏡ノ御影

一幅弘教大師 藥師堂 本堂ニ向テ右ノ方ニアリ三間四方ノ堂ニテ本尊長六寸許

多聞院 除地二段六畝二十歩北ツ原ニアリ曾井山ト號ス開山開基詳ナラス

多福院 除地一段二畝幸神ノ内首口ニアリ禪宗臨濟派管口山ト號ス郡内小和田村

支珠庵 除地一段七畝七歩玉ノ内ニアリ圓通山ト號ス五間ニ三間ノ庵室ニシテ本



地藏堂 置錫各長一尺ハカリ堂ハ二間ニ一問半ニテ南向ナリ持前ニオナシキナリ

廣徳庵 三ツ澤ニテ長五寸許リ二間四方ノ庵ナリ本尊釋迦ノ坐像長七寸脇士藥師ノ坐像ニ

藥師堂 除地七畝ニテ寺アリ新井ノ内東谷戸ニテアリ相傳フ昔コノ所ノ北ノ方ナル山

一尺七寸脇士各長一尺六寸ハカリ春日ノ作ト云其臺座ニ與州之住入樋口某ト記

建武二年九月十六日ニ記ス又西禪門妙猷禪尼トアリテ背ニ康永三年八月廿三日

藥師堂 除地二畝四畝寺ノ上ニテアリ二間半ノ堂ナリ藥師ノ長

多門堂 年貢地北ツ傍ニテアリ二間四方ノ堂ニテ南向ナリ

大日堂 年貢地梅ヶ谷ニテアリ二間四方ノ堂ニテ南向ナリ

地藏堂 年貢地坂本ニテアリモ石

藥師堂 坂本ノ内斑ヶ峯ニテ長三寸許リハ村内神明社除地ノ内ナリ堂ハ二間半ニ四間

北不動堂 年貢地勝雄山ノ麓ニテ長一尺ハカリ木像

大久野川 入レリ其流末東ニ走テ

舊蹟 館蹟 宇長井ニテアリ地形スコシク高ク一段飾リノ所ナリ又コノ邊日影ト云所

新井屋敷蹟 新井ニテ小田原北條ノ家士新井伊賀同十郎兵衛ト云シ

舊家 佐久間宗兵衛 八王子千人組ノ同心ナリモトハ新井氏ニテコノ所ノ新井伊豫守輝

一書指越啓達狀非別儀内々ニ付來月廿八日ニ相究趣小田原より申□□依之今



月十四日ニ諸家中寄合評定相極□□□早々□□可有之□□□  
天正二歲戌二月初日

赤松源太左衛門  
新井市郎兵衛丞

覺

- 野邊
- 雨間
- 牛沼
- 代繼
- 淵上
- 引田
- 山田
- 網代
- 伊奈
- 横澤

- 立谷
- 高尾
- 留原
- 小和田
- 五日市
- 中野
- 戸倉
- 乙津
- 養澤
- 入野
- 三内
- 大久野

右之村々當番之面々來ル廿六日朝七ツ半時御詰メ可被成候以上  
天正二年戌八月十一日

讚岐用人



追而申候

横澤大幡中務殿

網代貴志兵八殿

立谷貴志十郎左衛門殿

戸倉篠原與惣次殿

加判之義ニ付申渡候儀御座候間此書付廻付次第讚岐役所江御越可被成候油  
斷被成間敷候

百姓彌兵衛野口氏ハリ往古大久野七騎ト唱ヘテコノ地ニ土着セシ士七八アリ和  
彌兵衛カ祖先ナリ世々匠人エテ今モ其業ヲナセリ家ニ北條氏照ヨリノ文書ニ通  
ヲ藏ス其文ハ末ニ出セリ又元和三年江戶西丸御普請ノ御用ヲハシメトシテ同七  
年川越御殿寛永十三年同所同十七年府中御殿等ノ御普請ノ時モ御用ヲツトメシ  
ト云ソノ度々ノ書物數通ヲ藏セリ此餘六人ノ子孫モ土民トナリテ村内ニ居住ス  
モ傳ヘサレハコノニ略セリ

書出

一此度大途御弓矢□者御領分之番匠之儀悉相集於八王子一曲輪請取可走廻之  
事

一番匠衆之妻子何も八王子へ可入之事

一此度他へ罷移於番匠者何方ニ有之共被召返可被行死罪事

右大工綾野一左右次第馳參可走廻御大途前無際限御用可有之間於當春者就中

番匠衆可走廻御宛之所相背於番匠者可被處嚴科旨被仰出者也仍如件

子正月八日

大竹丹後奉之

大久野之番匠  
落合四郎左衛門

御書出

壹百文貳百文

大久野之内

落合

五百文

大久野

以上壹百文七百文

右爲御給恩被下候令知行如御下知可走廻旨被仰出者也仍如件

永祿十二己巳十一月七日

一庵奉之

番匠  
落合四郎左衛門

百姓五郎右衛門村ノ名主ヲツトム家ノ舊記ヲ閱ルニ其祖先ハ徳石見信秀トナノ  
百姓五郎右衛門正中二年相摸國鎌倉ヨリ此地ニ來リテ居住シテ醫ヲ業トス此



入野村ハ郡ノ西ニアリ秋留郷ニ属シテ庄名ハ傳ヘス江戸日本橋ヨリ行程十四里許  
村ノ四境東ハ館屋村ニ界ヒ南ハ五日市村ニトナリ西ハ深澤村ニ及ヒ北ハ深澤川ヲ  
限トシテ三内村ニ至ル東西七町半許南北二町半ニ及ヘリ地形西南北ノ三方ニ山丘  
アリテ高低ナル地ナリ民家ハ山ニヨリ溪ニソヒテ散住ス土性ハ眞土ニテ水田少ク  
陸田多シ當村ハ昔ヨリ御料ノ地ニテ正保ノ頃ハ御代官福村長右衛門支配セシカ筈  
ノ後延享四年ヨリ田安殿ノ御領知トナレリ檢地ハ寛文七年竹村彌太郎改メシト云  
ヘリ

### 入野村

高札場 村ノ異ノ方ニアリ

### 小名

山下 村ノ方ニアリ  
小倉 村ノ方ニアリ  
樽 西ノ方ニアリ  
若宮 北ノ方ニアリ  
赤崖 東ノ方ニアリ  
堂ノ谷 村ノ方ニアリ

### 山川

樽川 水源ハ村ノ内小名樽澤ト云所ヨリ流出テ村ノ南ノ方五日市村ノ境ヲ流レ下流  
レヨリ滴ル水コトニ甘フシテ恰モ酒ノ如シ樵夫山ニ入リコトニ飲メハ必酪ノ名  
ヨリ起リ見ユ

### 神社

八幡社 除地四畝二十歩小名樽澤ト云所ヨリ流出テ村ノ南ノ方五日市村ノ境ヲ流レ下流  
荒神社 除地二畝四歩東ノ方ニアリ  
子聖權現社 小東方ニアリ  
山神社 除地七畝十歩小名樽澤ト云所ヨリ流出テ村ノ南ノ方五日市村ノ境ヲ流レ下流  
第六天社 小名堂クモコトモニ村民ノ持ナリ

### 寺院

德藏寺 除地一段五畝小名樽澤ト云所ヨリ流出テ村ノ南ノ方五日市村ノ境ヲ流レ下流  
不動堂 境内ニアリ  
稻荷社 不動堂ノ側ニアリ  
深澤庵 除地六畝小名樽澤ト云所ヨリ流出テ村ノ南ノ方五日市村ノ境ヲ流レ下流  
事ハ深澤村舊跡ノ條ニモシテ本尊地藏ノ立像長一尺一寸五分菴ハ大サ三  
間ニ五間  
東向ナリ



藥師堂 除地三畝十四歩小名楳ニアリ三間ニ四間ノ堂ナリ

大日堂 除地七畝六歩コレモ楳ニアリ深澤菴ノ持ナリ

地藏堂 除地三畝十八歩小名山下ニアリ皆像許ナル小堂ナリ本

阿彌陀堂 堂地四坪コレモ山下ニアリ彌陀ハ木

五日市村

五日市村ハ郡ノ西ニヨリテアリ秋留郷高倉庄ニ屬ス古ハ小庄村ト唱ヘシ由イヘト  
ステニ正保年中ノモノニハ五日市トシルセハソノ改リシモ古キコトトミエタリ五  
日市ノ名ノ依テ起ル處ハ當村毎月五十ノ日市立シニ由レリトシ其地ハ江戸日本橋  
ヨリ行程十四里餘民戸百九十五軒村ノ四境東ハ館谷村ニ隣リ西ハ中野村ニ接シ南  
ハ秋川ニ限リ留原小和田ノ二村ニ對シ北ハ入野村ニテ峯ヲ境トセリ東西凡九町南  
北二十一町土地大抵平地ナレト南ノ方ハ少クヒキク西北ニ山アリ土性ハ眞土ニテ  
水固少ク陸田多シ村内一條ノ往還アリ東ノ方館谷村ヨリ西ノ方小中野村ヘ達ス道  
幅ハ廣キ所ニテ七間許長九町餘ナリ此村古ノ領主ヲ詳ニセス正保ノ頃ノモノニハ  
福村長右衛門カ御代官所及八幡領十石ト記セリ其後モ世々御料所ニシテ今ハ小野  
田三郎右衛門カ御代官所ナリ檢地ハ寛文七年竹村彌太郎タ、シソノ後享保十八年

寛播磨守政メシト云

高札場 村ノ東ヨリ中

小名

番場 村ノ西ノ小納村ノ南 松原 同ノ邊 小庄 同上ニ 入野 北ノ方 北寒寺 西  
ノ端ニ 權太 東ヘヨ 新町 村ノ西ニテ往 上市場 新町ノ東ニツハケリ中下市  
レヘヨ 申市場 下市場

山川

秋川 村ノ南境ヲナカ川幅ハ十四間餘アリ平常ノ水カサ二三尺ハカリ村ノ西ノ  
十町餘  
溪川 村ノ北寒寺川ニ合ス川幅  
四尺水路五町許ナリ  
稻臈石 金尾羅山ノ後ノ山ニテ高サ三丈ハカリ巖ノ形ヲ臈石並ヘタルコトナ  
アル所  
阿彌陀堂 堂地四坪コレモ山下ニアリ彌陀ハ木

神社

阿伎瑠神社 村ノ南方秋川ノ北岸ニアリ五尺ニ六尺ノ社ニテ前ニ拜殿アリ六間ニ  
都八座ノ一社ナリトイヘリ祭神ハ甘鋤或ハ味鋤高彦根命ニテ圓鏡ヲ載ル所ノ多磨  
正十九年社領十石ノ御朱印ヲ賜フ其文ニ寄進大明神領武藏多西郡阿伎瑠郷松原



之内拾石云云トアリ神主有竹長門カ話ニ當社古之神體ハ八幡太郎義家着領ノ胸  
 應ナリ銘ニ武藏國阿伎瑠神小鹽松原大明神建武五年二月朔日社務本願敬白ト  
 鶴ヲアレト建武ノ神體今深ク秘シテ他見テ許サレハ見ルコトアラハス此社ハ式内ニ  
 ル故ニテ建武ノ神體今深ク秘シテ他見テ許サレハ見ルコトアラハス此社ハ式内ニ  
 アラハレタレハ祭神ハ始メテトコノ社内ニ春日大明神ノ五字ヲ扁額  
 寛永年中ユヘテ杉檜椿日明神ト稱シ始メテ社内ニ春日大明神ノ五字ヲ扁額  
 セリ社地スヘテ杉檜椿日明神ト稱シ始メテ社内ニ春日大明神ノ五字ヲ扁額  
 歳六月晦日夏越ノ祓及九月廿九日清祓ノ神事トテ前日ヨリ市場トミエヨリ祭禮毎  
 家ニ神輿ヲ移シ祀レリ神主有竹長門ハ吉田ノ神事トテ前日ヨリ市場トミエヨリ祭禮毎  
 テル八幡太郎義家ノ著領ニ馬印一ノ金ノ五本骨 胸懸一ノ南蠻鐵ヲ以テ制マヘニモ  
 見テ許サレハモノナリ 末社 住吉社 本社ノ側ニアリ下 稻荷社 天滿社 寶藏 本社  
 眞偽ヲ詳ニセハ 末社 住吉社 本社ノ側ニアリ下 稻荷社 天滿社 寶藏 本社  
 神輿寶物等ヲ藏セリ 熊野社 小社一段一畝村ノ東北ノ方入野ニアリ  
 荒神社 同社五畝十歩小祠モ 荒神社 同社五畝十歩小祠モ  
 稻荷社 小地三畝六歩小祠モ 稻荷社 小地三畝六歩小祠モ  
 荒神社 小地一段六畝小名番場ニアリ 荒神社 小地一段六畝小名番場ニアリ  
 山王社 小地七畝村ノ小野村邊ニアリ 山王社 小地七畝村ノ小野村邊ニアリ  
 金毘羅社 小地八畝村ノ小野村邊ニアリ 金毘羅社 小地八畝村ノ小野村邊ニアリ  
 寺持ナ

籠堂社ハ通夜參籠ノ爲ニ設タリト  
 寺院  
 開光院 小名入野ニアリ 開光院 小名入野ニアリ  
 開山光嶽和尙大明寺殿心園道灌大居士文開基ハ丙午七月廿六日所見ナシ  
 諸記線ノ正ニカ太田持資ノ法號ハ春苑道灌全盛ノリテ城ヨリ甲州ヘ發向セ  
 面ニ當院ヲ寄カ文ヲテシテ云傳説ニ若道灌全盛ノリテ城ヨリ甲州ヘ發向セ  
 シニ當院ヲ寄カ文ヲテシテ云傳説ニ若道灌全盛ノリテ城ヨリ甲州ヘ發向セ  
 リ御當代ニ至リテ大猷院殿ノ御時カ後ノ道灌沙彌カ手狀ノ旨ヲ言上セシカハヤカ  
 テ寺領十六石ノ御朱印ハ傳マヒシ 經堂 觀音ノ安ニ立二間四方一尺許一  
 本堂ニ東南ノ方ニ御朱印ハ傳マヒシ 經堂 觀音ノ安ニ立二間四方一尺許一  
 徑二尺ノ寬永三年鑄造ノ尺ニモナリ 地藏堂 境內東ノ方ニ立二間四方一尺許一  
 基菩薩ノ 作ト云

玉林寺 小名小納トアリ 玉林寺 小名小納トアリ  
 像長一尺三寸許脇士迦葉阿難木ノ立像各長一尺一寸許リ開山明叟和尙貞和  
 年七月二日寂ス開基ハ實際院心解了脫大居士ト云コレスナハチ天正ノ頃小田原  
 北條家ノ旗門氏重國檢原ノ城主 鐘樓 本堂ノ餘リ正徳二年再鑄ノ間半鐘ノ徑  
 平山新左衛門氏重國檢原ノ城主 鐘樓 本堂ノ餘リ正徳二年再鑄ノ間半鐘ノ徑  
 官御靈權現相殿 盤現ノ北ニアリ 大日堂 本堂ノ許ノ木ノ坐像ナリ佛師春日ノ間半  
 ノ名ノ起リテ許コセス 大日堂 本堂ノ許ノ木ノ坐像ナリ佛師春日ノ間半  
 ハ毘沙門天ナリコレモ同作ナリ 大日堂 本堂ノ許ノ木ノ坐像ナリ佛師春日ノ間半  
 二尺餘ナリコレモ同作ナリ 大日堂 本堂ノ許ノ木ノ坐像ナリ佛師春日ノ間半

新編武藏府志 卷之二十一 神社  
 十四



阿彌陀堂 除地五畝二十六步上市場一尺二寸三間半五間東向ナリ

楞嚴寺 除地六畝十六步小名北寒寺ニ本尊釋迦木ノ坐像ニテ長五寸許開山龍玉虎公

和尙天正元年 藥師堂 境内ニアリ木ノ立像長一尺五寸行基菩薩ノ作ナリト云毎

二月三日寂ス 阿彌陀堂 除地六畝十六步小名北寒寺ニ本尊釋迦木ノ坐像ニテ長五寸許開山龍玉虎公

玉泉寺 除地一段六畝二步小名南庄ニアリ本尊十一面觀音木ノ坐像長一尺五寸許

不動院 除地五畝十五步八日示寂セリ 山王社 境内ニアリ本尊不動木ノ立像長四尺許

堂 境内ニ立像ニテ長一尺九寸四寸許 阿彌陀堂 除地六畝十六步小名北寒寺ニ本尊釋迦木ノ坐像ニテ長五寸許

覺法院 除地七畝十四步三間ニモテ南野ニアリ本尊彌陀木ノ立像長二寸ハカリ開山開

太子堂 小名權田ニアリ四間半四方本尊ハ木ノ立像長二尺九寸コノ餘彌陀ノ坐像

安セリ此堂ハ寶永年中馬場某開基セシコト元ハ觀音堂ナリシカ後 堂一字 太子

再造ノ時ヨリ太子ヲ本尊トシテ太子堂トハ呼ビナラハセリト云

右ニアリ三間四方秩父坂東西 太子堂トハ呼ビナラハセリト云

國ノ百觀音及ヒ地蔵ヲ安ス 太子堂トハ呼ビナラハセリト云

百姓勘平 先祖ハ甲州武田家ノ臣土屋右衛門尉直村ノ三男ニテ土屋越後守宗昌ノ

刀一振及家系ヲ所持セリヤリハ直鎗ニテ長サ五寸八分柄九尺許薙刀ハ身ノ長

サ一尺三寸五分モノニ會ヒトニテ刃三四ヶ所缺テアリ柄ハ五尺六寸ハ身ノ長

銘ノ赤銅ノニテ最古色ニミヘタリ皆無



新編武藏風土記稿卷之一百十上終

新編武藏風土記稿卷之一百十下目錄

多磨郡之二十二之下

小宮領

小和田村

乙津村

小中野村

戸倉村



新編武藏風土記稿卷之一百十下

多磨郡之廿二之下

小宮領

小和田村

小和田村ハ郡ノ西ニアリ秋留郷高倉庄ニ屬ス江戸日本橋ヨリ行程十二里村ノ四境東ハ留原村ニ堺西ハ戸倉村ニ接シ南ハ川口村北ノ方秋川ヲ隔テ、五日市小中野兩村ニ隣レリ凡東西五町南北四町餘家數四十軒當村南ヨリ西へ係リテハスヘテ小山ヲウケテ秋川岸ノナタレニ添テアリモトヨリ御代官所ニシテ今ハ小野田三郎右衛門支配セリ檢地ハ寛文七年竹村彌太郎承リテ糺セリ

高札場

小名

庄ノ澤 南ヶ谷戸 根岸 瀧口 栢原

山川

小庄山

正應村ノ西

栢原イツレモ東ノ方

西ヶ谷 上ノ臺 石



夜乘山 同ノ東ノ方ナリ

上ノ谷山

舟ノ谷山

男ノ入山

鬼神山

平藏ヶ窪山

秋川 石川ニテコトハ大石多キ故水勢強シ村内ヲ東流セリ川幅三十間アマリ冬コトナク餘業トスルコトヲツカニ斷ノ獵アリ

橋梁

土橋ニヶ所

神社

御嶽社 社地村ノ東ノ方丘上ニアリ覆屋六尺ニ七尺石鳥居ヲ立神體 權現社 除地 二歩村ノ西南ニアリ今 其祠ハナシ村民ノ持

寺院

廣德寺 境内一萬二千坪餘村ノ中央ニアリ龍角山ト號ス臨濟宗相州鎌倉建長寺末開基ハ正應長者ト云シモノノ妻法名ヲ龍智智雲尼ト云者ニテ明德年中建

寺領之書立  
長寺前住心源希徹和尚ヲ請テ開山トナセリ必源禪師ハ應永十年十月十三日寂セリ其後數々ヒ丙丁ノ災ニカハリテ衰廢セシテ北條氏康更ニ堂舎ヲ建立セシニヨリ今是ヲ中興ノ開基トナセリ御入國ノ後寺領四十石ノ御朱印ヲ賜ハリシトイハレハコレヲ及古文書等ヲ藏スレハ左ノセク

戸津原

深澤

中野

同所

窪

押楯

次賀尾

平井之内

小和田

以上九ヶ所

右書立之分不可有相違年貢之員數者注本帳者也仍如件

天文廿年辛亥九月六日

眞月齋道俊花押

由井之廣德寺領深澤之山萱之事寺宗爲修理立置候於深澤カヤ対取者有之者可



處罪科候堅可有成敗者也仍如件

弘治三丁巳七月四日

廣德寺

狩野又四郎奉之

寺中門前共ニ棟別之事指置畢但家數之小日記有之向後他郷之者至了門前へ集者可爲曲事候仍如件

弘治三年丁巳十一月廿七日

廣德寺

狩野大膳亮 奉之 庄式部少輔

制札

右廣德寺寺山向後立山ニ被仰付候嚴密ニ可相立旨被仰出者也仍如件

按三正十四年 丙戌六月廿八日

中島大藏丞奉之

廣德寺

寺山

本堂七間ニ十間半東向本尊聖觀音木ノ坐像ニ長三尺許安阿彌ノ  
 四間樓上ニ釋迦文殊迦葉阿難ノ木像ヲ安ス共ニ長三尺六寸ハカリ  
 ス境内ニ小田原北條氏五代ノ石碑立リ 經藏本堂ノ左ニ  
 アリ一間半四方鐘ノ大サ圓徑 龍角權現祠本堂ノ西ニアリ祭神ハ帝釋天ナリ木  
 五尺寶曆九年ノ銘文ヲ鐫レリ 地蔵堂山門ノ南ニアリ一間四方ノ堂ナリ木ノ坐像  
 藏堂リコナシホト 御靈權現祠云又コノ傍ニアリ鐘舎權五郎景政ヲ祭レリト  
 虎巖ハ雙虎ノ方丘上ニアリハメシク四丈アリ祠ヲタテリ五尺一  
 正應院乾照院ノ二院アリシカ後 破壊シテ今ソノ跡ノミ殘レリ

小中野村

小中野村ハ郡ノ西ノ方ナリ秋留郷高倉庄ニ屬ス江戸日本橋ヨリ行程十四里半村ノ  
 四境東ハ五日市村ニ隣リ西ハ倉戸村ニ接シ北モ戸倉五日市ノ山頂ニツ、キテ南ノ  
 方ハ秋川ニカキレリ川ノ向ハ小和川村ナリ東西八町南北二町餘村内ナヘテ山丘ノ  
 地ニテ杉松椴桑楮ノ類最多シ去ハ陸田カナニシテ水田ハワツカニ谿谷ノ間ニヒラ



ケリ土性ハ眞土ナリ其中砂石ノ交リタル所モアリ民家四十八軒大抵往還ノ左右ニ  
ナラヒテ住ス是村古ノコトハ傳テ失フ御入國ノ後ハ御料所ニテ寛文七年竹村彌太  
郎檢地シテ租米ノ數ヲ定メシト云御代官ハスタイノ遷替アリシカトソノ委シキコ  
トハ詳ニセス今ハ小野田三郎右衛門カ支配ニ屬セリ

高札場 中央ヨリ西ニ

小名

雪平 西ノ方戸倉村 子安前 坤ノ方チヌス 下中野 南ノ方 近田 東ノ方ハ 栗原 近  
ツハキニテ少シ 中谷戸 村ノ中 竹鼻 中谷戸ヨリ少シク東ノ方ナリ或ハ竹ノ  
ク南ニヨレリ

山川

秋川 村ノ南境ヲ西ヨリ東ヘナカル砂利川ニシテ平常ノ水幅十三間アマリアリ深  
サハ二三尺モアルヘシユヘニ通船ノ便アリクシテ常ニ筏ヲクミテ運漕ノ便  
セリ

神社

子安明神社 村ノ西ノ方ニアリ三間ニ二間ノ社ニテ神體ハ鑄像ノ坐形長三寸許リ  
寺ノ持 年歴オヨヒ祭神ヲ詳カニモス例祭ハ毎年三月十五日ナリ安養  
寺ノ持

十二天社 除地四畝十歩村ノ東ニアリ是モ勸請ノ年月ヲ傳ヘス村ノ記録ニ當社ノ  
地ト見ユク

末ヲ詳ニセシ類

愛宕社 安養寺ノ後背山上ニ町許リコアリ小祠  
ナリ例祭ハ毎年正月廿四日安養寺持

牛頭天王社 村ノ北小名弘澤山ノ上一町許リコアリコノ社ヲテ  
ナモテ天王山トモヒケリコレモ安養寺ノ持ナリ

寺院

安養寺 境内一段八畝十歩外ニ水田四畝村ノ中央ニアリ新義眞言宗郡内横澤村吉  
祥院末佛石山ト號ス開山開基及ヒ起立ノ年代ヲ傳ヘス客殿七間半ニ五間  
半本尊如意輪觀音ノ立像長  
一尺三寸五分ナルヲ安置ス

眞念庵 村ノ中央ニテ安養寺ノ向ニアリ淨土宗瀧山大善寺ノ進退ニヨレリ茅葺ニ  
立身ニテ長二尺五  
寸許共ニ作知ス

乙津村

乙津村ハ郡ノ西北ニアタレリ立田庄秋留郷ニ屬ス江戸日本橋ヨリ行程十五里是村  
古ハ戸倉村ノ地ニソクセシカ寛文九年分ナテ一村トナレリ村ノ四境東南ハ戸倉村  
ニ隣リ西ハ檜原村北ハ養澤村ニ及ヘリ東西二十町南北一里半許リ南北ハ山丘多ク  
シテ総テ陸田ナリ土性ハ野土眞土砂土等ニテ五穀ノ生殖ニヨロシカラス民家ハ百  
十九軒秋川ノ兩岸ニソヒテ散住ス土産ニ大畑紙ト云紙ヲ漉出シテ生産ノ助トナス  
村内西ヘヨリテ檜原道ト云往來アリ道幅六尺餘リ秋川ニ傍タルミナナリ村ノ中央



ニ養澤村ノ飛地アリ民家モ十二軒アリ故ニ廣狹ノミチモテ村ノ大サナイヒカダシ  
檢地ハ寛文七年成瀬八左衛門ニテモトヨリ御料所ナリシカ寶曆二年米津越前守ニ  
賜リ今モ子孫伊勢守カシル所ナリ秣場五ヶ所一ハ村ノ北一ハ村ノ東一ハ南一ハ良  
エテ一ハ北ニアリ其内良ノ方ナルハ近村入會ノ地ナリ

高札場 本村ニ

小名

落合 村ノ異ノ方 軍道 北ノ方 迎下 良ノ方 本村 中央 青木平 西ノ方

山川

光明山 村ノ北ノ方ニ細ノ下ノ神ノ部ニ出セリコノ邊山多トイヘトモ御嶽大嶽及  
ビ當山コレヲ三ツノ高山ト云サレト御嶽大嶽ヨリハ少  
秋川 村ノ南ノ方ニ流ル石川ニテ水ニテ東ノ岸ハ巨壁立シテ川幅廣狹アレトモ凡  
ニ達

養澤村 養澤村ノ方ヨリ流レ來リ村内ニテ秋川ニ落入レリコノ餘大澤  
中山澤 村ノ西ニ椏原村  
入野澤 村ノ西北

足瀬澤 村ノ東ノ方ニ流ルサカヒニテ以上  
松葉澤 村ノ良ノ  
根生澤 又コレノ良ノ方ニ並ヒニ石原澤ト云流レアリコレモ末ハ養澤川ニ落合フ  
温泉跡 五尺ノ四方ナル湯壺ノアト殘レリ  
瀧二ヶ所 一ハ村ノ北ノ方ニ長サ三丈ハカハ少  
清水二ヶ所 一ハ村ノ南ニテ飲水ニ用ユ一ハ東ニテ言ヘカラス故ニ里人コレヲ  
崎西ノ方ニ嶺ノ方ニテ養澤川ノ信州ニ及フ所ニ出崎ト呼ベリ  
天狗岩 形屏障ノ方ニテ養澤川ノ南岸ニテ高サ十丈許リ盤踞ト呼ベリ  
橋梁

土橋五ヶ所 其内四ハ飲川ニ架ケ一ハ深川ニ  
神社

熊野社 除地一段八畝ニ歩村ノ北ノ方光明山ニテウチツル石礎五ノ級アリ社ノ左  
宇ヲテ大ニ二間ニテ三間ニテ松拾陰ノ森トモノ通夜スル所ナリ又石礎二ノ級アリ社ノ上  
モコミナ朱塗ナリ祭神ハ伊弉册尊速玉命津事解男命ノ三座ニテ本地佛ハ彌陀  
藥師觀音ナリ大永六年六月ノ勸請ト云傳フ例祭年々二月九日村内小名軍場ト云  
守ナリ 鳥居 山ノ中程ニテ鳥居場トイヘリ 末社 若宮權現社 本社ノ後ニテ一ノ王子



社稻荷社相殿 絶頂ヨリ三町許リ下 高岩五居場ノ下ニアリ高 馬蹄石鞍石此二  
トモニ鳥居場ヨリ四五町許リ上リテ路ノ傍ニアリ傳テ云熊野權現馬ニ乗テスキ  
玉ヒシ時ノ跡述ナリト云フコヽヨリ又三町許テ上リテ老杉一株アリ大サ十圍許  
リナ 神主鈴木伊豫所ニ住セリト云

神明社 除地二段一畝九歩小名本村ニアリト云例祭ハ二月十一日ナリ村ノ鎮守コテ  
三内村神主三内 對馬カ持ナリ  
若官八幡社 除地三畝二十七歩小名本村ニアリト云例祭ハ二月十五日ニ間東向祭神ハ日乃子  
鷺明神社 除地一畝二歩村ノ東ノ方ニアリト云例祭ハ二月十五日小名落合ノ鎮

守神主栗原對馬持  
春日八幡相社 除地一段二畝村ノ東ノ方ニアリト云例祭ハ二月十五日コレモ小名落合ノ鎮守ナリ神主ハ  
鈴木掃部  
熊野社 除地九畝二十三歩小名青木平ニアリト云天文二十二年正月ノ草創ニテ例祭正月二十八  
日トイヘハイツツカニ形ヲノコモセハ非サレト今ハオ

寺院  
龍珠院 小名本村ニアリ禪宗臨濟派巨倉村光嚴寺末天照山ト號ス貞治二年十一月  
八間南向慶安二年寺領九石八斗ノ御米印シ服  
德雲庵 除地二畝二十一歩村ノ東ノ方ニアリ禪宗臨濟派ヨレモ光嚴寺末龍化山ト  
八分客殿六間  
陽谷菴 除地二段一畝二歩小名青木平ニアリコレモ光嚴寺ノ末ナリ福祐山ト號ス  
間南向

明光菴 除地二段二十一歩小名軍道ニアリ當寺モ光嚴寺末ナリ魔王山ト號ス開山  
本堂四間ニ六 彌陀堂三間四方ノ堂ナリ  
寶泉寺 除地二段一畝九歩村ノ東ノ方ニアリ是モ同寺ノ末ナリ岩龍山  
藥師堂 石ノ坐像村ノ長一尺三寸アリ百姓ノ持ナリ  
地藏堂 年貢地村ノ西ノ方一尺三寸ハカリ村民ノ持

古蹟  
菴跡 除地九畝二十八歩村ノ西ノ方青木平ニアリ  
舊家

百姓市之丞 乙津ヲ氏トス相傳フ先祖ハ大和國乙訓郡ノ人三河守源兼信ト云シ人  
堀ヲ領ス元和元年大坂陣ノ時流矢ヲ被リシカ後ツイニシノ藩ノ移住ト云シ人  
軍勢催促ノ古文書ナリ所  
持スソノ文左ノ如ク



書出

一此度就御弓矢當郷ニ有之爲男程之者先年之任吉例檜原谷爲御加勢被仰付候  
平山右衛門太夫一左右次第速爲男程之者彼谷へ相集可走廻候他所へ出張越  
者ハ從類共可被處死罪事

一於檜原相渡普請之儀是又無之心得可走廻事

右大途就御弓箭如此被定置候此掟於相背者者可被處死罪旨被仰出者也仍如件

戊子正月九日 徳天正十六年

西戸藏

戸倉村

戸倉村ハ郡ノ西ニヨリタル地ニテ高倉庄ニ屬セリ江戸日本橋ヨリ十三里ノ行程ナ  
リ村ノ地ヲ土地ニテハ五ツニワカナテ戸倉郷五ヶ村ト號セリ其五ヶ村ト云ハ戸倉  
元村西戸倉坂下星竹盆堀谷等ナリ古ハヨホトノ大村ニシテ今ノ養澤乙津ノ二ヶ村  
モコノ村ノ内ナリシトソカ、ル廣キ所ナレハ昔ハ村ノ水帳モスヘテ十二冊ニ分テ  
シカ寛文七年三月成瀬八左衛門カ檢地セシトキ西戸倉ノ内ヲサキテ乙津村ヲタテ  
星竹ノ内ヲサキテ養澤村ヲタテシト云コ、ニ於テ今ハ水帳モ當村ニカ、ル所ハ六

冊ノミナリ村ノ地大抵西ヲ首トシ東ヲ尾トスモトヨリ高抵アリテ秋川ニ嵯峨ス西  
南ノ方盆堀ノ谷ハ東南ノ方へ漸ク下ル地勢ナリ民家百三十七軒所々ニ散住ス其四  
境ハ東ハスヘテ三村ニテ其内小和田入野二村ハ峰ヲ境トシ小中野村ノ境ハ秋川ヲ  
限トセリ西ハ乙津村ニテ澤ヲ界トス南ハ山入川口ノ二村ニシテ峰ヲ界トス北ハ養  
澤村及ヒ小曾根ト澤トノ所々ニサカヘリ四方トモニ凡二里ホトナリ水田ハ字星竹  
ノ内ワツカノ間ニアリテ陸田ニ比スレハ十分ノ一ナリ土性ハ星竹ノミ眞土ニシテ  
其餘ハ皆細土ナリ水旱トモニサセル患ナシト云産業ハ男ハ耕作ノ餘事ニ材木ヲキ  
リテ筏トシコレヲ江戸ニ致ス女ハ紡織ヲ事トス其織様ハ八丈縞ニナラセテコレヲ  
紛八丈ト呼フ且蠶養ヲ專トス盆堀谷ニテハ炭ヲ燒モノモマタ多シ當村御打入ヨリ  
コノカタ御料所ニテ慶安ヨリ寛文ノ頃マテハ福村長右衛門支配シ延寶天和ノ間ハ  
近山六左衛門萬年長十郎天和元祿ノ間ハ池田新兵衛元祿寶永ノ間平岡三郎右衛門  
正徳享保ノ頃比企長左衛門會田伊右衛門石川傳兵衛河原清兵衛江川太郎左衛門萩  
原源八郎上坂安左衛門齋藤喜六郎元文中大屋奎之助寛保年間ニハ伊奈半左衛門  
カ御代官所タリシカ延享四年ヨリ田安殿ノ領地トナリシヨリ今モカハラス

高札場 元村ノ宿中  
南側ニアリ



小名

元村 中央ニあり此山ノ字上宿下宿上田上原ノ四ヶ所ニ分ツ此内宿ト云所ハ凡  
津村 一町ノ行程ノ間此山ノ字上宿下宿上田上原ノ四ヶ所ニ分ツ此内宿ト云所ハ凡  
町小中野村秋川ノ界ヘ一町半ノ行程ノ間此山ノ字上宿下宿上田上原ノ四ヶ所ニ分ツ此内宿ト云所ハ凡  
半川一里半ノ行程ノ間此山ノ字上宿下宿上田上原ノ四ヶ所ニ分ツ此内宿ト云所ハ凡  
倉西ノ方ナリ東ノ二町北ノ方ハ八町ノ行程ノ間此山ノ字上宿下宿上田上原ノ四ヶ所ニ分ツ此内宿ト云所ハ凡  
内ニ瀧澤トイフ字アリ

山川

日向峰峠 小和村ノ境ニあり登リ三町許リ  
秋川 乙津村ノ界ヨリ氷カサ二尺許小中野村ノ界ニ至リテ土橋アリコト凡二十町  
東ヘテユクテ ナカレユクテ  
盆堀谷川 凡一里餘川幅五尺許コノ下流字窪河原ト云所ニ氷碓一ヶ所アリ光殿寺  
持ナ  
カリウセ川 水源ハ村ノ南字南澤入ヨリ出テ東ニナカレ坂澤川ハ合ス  
坂澤川 水源ハ村ノ南字南澤入ヨリ出テ東ニナカレ坂澤川ハ合ス  
加茂淵 村ノ西北ノ立岩アリ流コナタノ崖ニハ石相ツラナルコト一町半ハカリ幅

許ハ三間許アリ其下ニ三間許高抵出沒奇狀ヲナス水流ハ岩間三間許ノ所ニテ底ニ三尺  
帽子岩ト稱スコノ飛流ヲ加茂淵トモ稱スレトモ瀑布ト云ホトノ事ニ非ス  
澤川 十二流アリ下流ハミナ秋川ニ合ス  
間久保澤 地蔵ノ入澤 寺ノ澤 瀧ノ澤 蘆瀬澤 李澤 山ノ神澤 釜之澤  
寺澤  
不動澤 水源ハ富藏山谷ヨリ出テ東ニナカレ水路三町程  
クダチ澤 水源ハ北ニ流レテ盆堀谷川ニ入ル  
瀧二ヶ所 村ノ南カクシ川ニ入ル  
スレ岩下ヘオツルコト一丈七尺水幅八寸許コサ二間許リ  
水利  
清水井 村ノ西字宮本ノ土手下ヨリ涌出ス徑三尺深サ四五尺細流一町許東流シテ  
内チナガルコト邊ノ家々ニテ汲テ用水トス

神社

不動社 除地陸田山併一段ノ不動及ヒ郡中高幡村金剛寺ノ不動トニアリ相傳フコノ  
辨像ナリト云縁起云當山ノ不動ハ八皇四十九代光仁天皇寶龜元年南都東大寺良  
内チナガルコト邊ノ家々ニテ汲テ用水トス



勤修スルコトヤ久シ寐寐ノ間不測ノ告ケテ紫リテ不動ヲ此地ニ安置スヘシ  
 トナリ僧正歡喜ノ餘明ルテ待テ一軀ノ不動ヲ彫刻シ莊嚴コト畢リケレハコレ  
 リ靈驗日コ新ナリトイヘリ祭日ハ年々正月廿八日八月廿八日ナリ當所元村ノ内  
 農家五十軒ノ産神ナリ社ハ東向ニテ三間四面葺ニテ向拜ハ銅瓦ヲ用ヒ總テ丹  
 塗ナリ野口大ノ四口ヲ掛シ其中央ナルモノ古物ナリ刻シテ云武州戸倉郷富藏山  
 明王御寶殿常住之打金也時永和元卯十二月八日願主末長敬白トアリ社地ハ六  
 七十歩ノ平地ニテ前ノ石階五六級アリコノ神職宮本備後持  
 又一町ホト下リテ木ノ島居ヲタツ三嶋明神ノ神職宮本備後持  
 三島明神社地除地村ノ鎮守ナリ社傳ニ當社ハ天徳二年戊午二月廿八日豆州三  
 長二尺八寸ナルヲ神體トス本社東向ニテ七尺ニ五尺ホト鑿屋ニ間ニモナリ相  
 ニ熊野權現ヲ祀ル神體ハ徑八寸ノ鏡ニテ其中央ニ剛容ヲ鑿出シタルモノナリ外  
 タリテ七寸ノ神鏡アリコノ熊野權現ハモト當社ヨリ少シ西ニア  
 ハ中浦氏ノ坂東八平氏ノ遠裔ナリト云下書ニノスル中浦上總助平顯宗ハ是  
 カ祖先ナルヘシ玉正年中ヨリ宮木ト改メシトナリ家ニ古文書十四通ヲ藏ス其文  
 トシノコ

甲州凶徒并地下□□□武□□□一備中次郎□□□平山三河  
 入道馳向之由注進之上者不日令進發合力□平山可致忠節之狀如件

應永廿年二〇〇十日

武州南一揆中

甲州之武士大矢藏之輔事同國小宮之内住居住由當家出勤可仕旨申之條有其間

者也早速糺實否可申達也

應永廿年五月十日

左兵衛督持氏花押

武州南一揆中

政所方公事等除日供炭油事就今度忠節自今年五ヶ年所免除也可存知其旨之狀如件

應永廿四年十二月廿六日

同上在判

南一揆中

新田并岩松餘類可出帳由所有其聞也令出□□者不日馳向於討進者可抽賞之狀如件

應永廿五年四月廿八日

同上在判

武州南一揆中



爲新田并岩松餘類對治差遣治部少輔持定也不日馳參屬彼手可致忠節之狀如件  
應永廿五年四月廿九日

同上在判  
武州南一揆中

恩田美作守肥前守等事隱謀露顯之間御教書被成下爲退治持定被指向依之令同心候之間急府中關戶迄可令出陣者也

應永廿六年八月九日  
中浦上總助平顯宗花押

小宮之内  
岩崎神十郎  
網野彌五郎

恩田美作守事同肥前守兵庫助憲國并禪秀同意之段露顯之間欲致糺明之處沒落

之由所令注進也令現形者令同心守護代可抽職功之狀如件  
應永廿六年八月十五日

同上在判  
南一揆中

恩田美作守同肥前守等事隱謀露顯之間追放之處相語惡黨等出張彼在所之由所有其間也早被同心守護代不日馳向可加對治之狀如件

應永廿六年八月十七日  
同上在判

武州南一揆中  
陰謀之族可打出之由□有其間也靜謐之程於府內以巡番可致警固之狀如件

應永廿六年八月廿四日  
同上在判

武州南一揆中



敵館籠之□□爲御退治以諸勢而所被指向也仍爲國中警固早々重而令出陣有凶徒出張之義者最前馳向可被抽戰功之旨被仰出候恐々謹言

九月十日

上杉重實  
長棟花押

武州南一揆御中

中村彌五郎

岩田神十郎

石川

宮本

以上

右衆御用可被仰付之間廿六未明瀧山御城へ可參候縦いかやうの類候共此りのよても明日早天ニ可參候也依如件

申七月廿五日

御走衆中

小宮之内宮本禰宜職如前々可走廻者也仍如件

己未霜月十日

布施

横地

禰宜六郎太郎

□ハ甲州事其方□□仰出候惣一揆□以御談合御返事可有御申由□給候可存其旨候委細之趣期後信候間令□畧候恐々謹言

六月三日

前肥前守藤次花押

謹上 勝治丞  
御返報

□□向之由□□到來候急□□急速御一揆□□御立候殊致□□目出候



然者就□□承候其段可□□早々御左□候恐々謹言

□□□□

□□廻返

沙彌道守花押

又古キ薙刀一振給一筋ヲ藏ス何人ヨリ賜ハリノ二ノ字ヲ錫ス給ハハ三角穂ニテ長六寸  
ハ長一尺八寸二分柄六尺八寸アリ銘ニ下坂ノ二ノ字ヲ錫ス給ハハ三角穂ニテ長六寸  
五分中心ハ八寸ナリ奥州津住  
真忠ト銘アリ柄ノナカサ九尺  
稻荷社ト社地三十餘年貢地ナリ本村ノ西南盆堀谷ノ内字宮ノ尾ハアリ正一位稻荷  
請ノ年貢地ナリ本村ノ西南盆堀谷ノ内字宮ノ尾ハアリ正一位稻荷  
一尺二寸五分又古鏡ノ形ハ衣冠アリ徑五寸五分ノコトナリ  
文字ハ梵漢トモカシナリ拜殿ハ本社ヘツコリカケニ  
社ハ盆堀谷ノ農家ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
神明社ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ

### 丸本寺

テ覆屋アリ金幣ヲ神體トス又圓徑三寸ノ神座ニ祭神有テ彌勒ハ本社ナルヘシコレモ木ノ鳥居ヲタタリ  
座本社覆屋ノ内ニ別ニ祭神有テ彌勒ハ本社ナルヘシコレモ木ノ鳥居ヲタタリ  
神明社ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
白石社ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
神樂堂ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
座本社覆屋ノ内ニ別ニ祭神有テ彌勒ハ本社ナルヘシコレモ木ノ鳥居ヲタタリ  
神明社ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
白石社ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ  
神樂堂ト社地三ノ持コトニテ西邊寺ウケタマハレリ

### 寺院

光嚴寺 境内一萬三千五百坪餘村ノ西方城山ノ麓ニアリ正年中按十號九古ハ壽峰石  
ノ御朱印ヲ賜フ境内モソノ内ナリトイヘリ開山ハ正宗廣智禪師ナリ寺傳ニ云  
唐シテ法安七月中廿四日示寂セリト比歸朝ノ後長圓覺等ノ轉住ヲ其後當寺  
ヲ創立シ應安七年正月廿四日示寂セリト比歸朝ノ後長圓覺等ノ轉住ヲ其後當寺  
寺傳カクシノ如クナレトモ鐘銘ニヨレハ建武年中基氏ノ父尊氏ノ智禪師立ニテ其後  
後光嚴院トシテ號ナレトモ鐘銘ニヨレハ建武年中基氏ノ父尊氏ノ智禪師立ニテ其後  
ル本尊ニ釋迦ノ木像一尺三寸作シカカス其徒ナリト云キノ智禪師立ニテ其後  
一尺五寸餘ノ書ハ一面ニ六間ノ堂ニ古キ位牌一基アリ前モ木立ニテ其後  
重阿禪定ノ門トシテ裏ニ卒ニ宮ノ上野介所城主トアリノ手ニ成シモノナルヘシ  
コノ餘道徳高僧トシテ卒ニ宮ノ上野介所城主トアリノ手ニ成シモノナルヘシ  
鐘樓ト云フ山者武左中聊呼草凡地爲古道五者鑄造ノ鐘ニテ圓徑二尺六寸五分是  
西天目ノ帝遊國師法入唐勅以賜寺號爾光嚴寺也殊源尊氏公取歸崇既創建  
十九代之帝遊國師法入唐勅以賜寺號爾光嚴寺也殊源尊氏公取歸崇既創建  
精舍并鑄洪鐘以寄置焉  
神明八幡台社 表門ニ向テ左ニ  
神光庵 除地二畝村ノ西方城山ノ麓ニ其年代ハ五ノ間半開山ハ古岩元陣ト云僧ナ

新編武藏風土記 卷之二十一 高野郡 寺



記スト

長福庵 村ノ西方光嚴寺御朱印地ノ内ニアリ四間四方ノ庵ニシテ十一面觀音ヲ本尊トス開祖ハ忍溪得哲和尚ナリト云コノ人ハ連長圓覺ノ兩寺ニ住シテ應永十二年二月十二日寂セシト云ハ起立ノ年歴モ推シテ考フヘシ

妙慶院 除地畑九畝二歩字上田ニアリ六間ニ四間ノ庵ナリ本尊除地畑九畝二歩字上田ニアリ六間ニ四間ノ庵ナリ本尊

西蓮寺 願寺末開地一段九畝五歩盆堀谷ニ客殿六間ニ五間半本尊三尊ノ彌陀ヲ安ス木ノ立身ナリ寺寶ニ惠心僧都ノ畫キ者也

彌陀ノ像一幅アリ紺紙ニ惠心僧都ノ畫キ者也

普光寺 境内除地一段四畝二歩字星竹ニアリ臨濟宗ニテ村内光嚴寺ノ末ナリ月廿三日寂ス客殿六間半ニ四間半正觀音ヲ本尊トス木ノ坐像ニシテ長五寸

觀音堂 西戸倉ニアリ二間四方正觀音ノ木像長六寸ナルヲ安置ス村持

十王堂 除地畑三畝盆堀谷ニアリ九尺ニ二間コレモ百姓持堂ノ背後ニ應永十七年ノ古碑一所ニ基アリコノ餘村内ニ寛正四年正長元年同四年寶徳二年應永廿一年墳墓ナルコトハ總テ詳ナラス

年等ノ古碑所々ニ散在スレト何人ノ墳墓ナルコトハ總テ詳ナラス

舊蹟

城蹟 村ノ西方城山ト云所ナリ小宮上野介某カ居住ノ跡ナリトイヘリ高サ四町餘

險阻ニヨリテ最要害ノ地ナリサレト山上平街ノ地ハ六七十歩ニテ絶頂ニ至リテハ境内小宮カ居城ノ地ニテハ城ノ跡トモオモハレヌ或ハ云此山ノ東西ナル光嚴寺タル地ナラシトサレト其詳ナルコトハ知ヘカラス

慶雲庵 蹟寺ノ上野原ニアリ近キコトハ相摸國圓覺寺ノ住僧ニ隱省菊和尚ノ創立スル處ナリコノ人文正元年六月十四日寂シタルハ大低其年歴モオシテシルヘシ昔ハ寺領百石アリシト土人ハイヘトソノ詳ナルコトハスヘテシルヘカラス寛文中ノ水帳ニハ慶雲寺トシルセリ

舊家

來住野徳兵衛 徳兵衛ハ八王子ノ千人組ノ同心ナリ家系ハ詳ニセサレト家ニ古キ子孫ナルコト知ルヘシ文書ニ

去春上州陣より至らうさ文御歸御難義所と色々はりめくり御ども申思節無是非候間日影落合出之候いよく忠信あるへく候謹言

天文十三年十二月八日

康明花押

來住野大炊助

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言

來住野大炊助方同名大藏丞方上下之儀承候尤自前々大炊助方をうりやう筋之由候間可爲其分候委細承届候將又ささいち右馬助片夫之儀急度御作買候て彼方ニ御渡尤ニ候指加之義も此間之半分可被爲候何事も重而可申宣候恐々謹言



正月十八日

横地監物丞吉信花押

下高瓦高岩齋

上高瓦修理進齋

御報

御書出

右今度檜原衆鶴郡讓原へ相動處抽粉骨走廻敵一人討捕候神妙之至候仍被成御感狀旨被仰出者也仍如件

辛巳五月三日

松田四郎右衛門奉

來住野善二郎齋

陣觸

一惣國之御人數小田原へ被集候正月十四日在所と立十五日着府可申候此日限無相違八王子ニ在宿致十四日ニ者未明ニ御供可申事

一天下御弓矢立の義ニ候間諸侍之嗜此時候鍵小旗を始諸道具新敷さらひやか  
一可致事

一着到之内一人成共不足ニ付而者可爲曲事就鎗小旗弓鉄炮着到之内之道具一  
挺も無不足可持之事

一手前之普請可有之くわつるのは一可致覺悟まさかりの儀ハ必一騎ニ一丁つ  
可持之御尋之時不持合旨申ニ付而者可爲越度事

一御長陣不被知候小荷駄の付とこひの支度肝要候事

一正月取沙汰禮のとりかへ一切被停候事

一妻子之仕度致之何時も八王子へ入候様ニ可申付事

以上

右天下之御弓矢ニ付而如此候各其分別致萬端と措置出陣一三味之支度可申者  
也仍如件

丁亥十二月廿四日 御陣觸

來住野大炊助齋

同甚七郎齋



荻原五兵衛為

急度申越候然者平山伊賀守知行於小山之獵籍取物之書立被指出候驚入候先日者彼平田一人當地へ可差越一理申付候科ニ荷着之上こと下地と以家財點啓も可致之候至今日糺明も無之處ニ家財點檢剩本人も無之百姓之家財迄取之事無是非仕合ニ候公事之子細者如何共有之加様之方外者前代未聞候大切之境目在城之平山ニ恐怖候者被爲持候事無是非候其時之手代同名大炊助罷越之由申候彼者令成敗平山立腹可相上候取物之書立遣之候明日悉取調本主ニ可相返若一物成共不足ニ付而者可爲越度候先日罷越候者共相集定ちりくニ可取之條人別ニ懸可取返候近比若輩之申付様無届候平山被指出候取物之書立遣之候恐恐謹言

十二月六日

北條陸奥守ナリ  
氏照花押

中山勘解由左衛門為

十壹貫五百四十四文

知行之辻

貳人

上下

鎧

壹本長柄

大立物

以上改而被仰付條々

一竹鎧御法度之事付はくれさゝる鎧御法度之事

一二重して策幣可致之長さ可爲六寸七寸事

一鎧持歩者にかり笠さすへき事

一道具廿より内之者へ爲持間敷事

一無立物甲雖軍法ニ候由并衆不立者も有之見合ニ打而可被捨於來秋可致大立

物事

右着到知行役候處每陣令不足候無是非候來秋不足之儀ニ有之者知行と可被召上御斷度々重上於來秋被指置間敷者也仍如件

寅六月廿一日

來住野大炊助為



百姓八十八 來住野チ氏ト先祖ハ北條氏ニ住野ニ仕兵衛カトノ云傳ヘテ詳ナル仕コト  
 シモノナルヘマ家ニ先祖カ帯セシモノナリトテ太刀一尺三分ニ長光ノ二草柄ニシ  
 刀ハ身ノ長二尺八寸五分中心七寸一分添ハ無銘ニ太刀一尺三分ニ長光ノ二草柄ニシ  
 ス清深ハシテ焼刃ノ斜子ナリ系ニ鑲ニ廣道ノ二見祖ハ倭藤太秀郷十三代ノ後裔ナリト  
 テ鐵具ハスヘテ赤銅ノ子ナリ系ニ鑲ニ廣道ノ二見祖ハ倭藤太秀郷十三代ノ後裔ナリト  
 百姓利左衛門守野信ニ山ツ家ニ信ハ伊勢國二見祖ハ倭藤太秀郷十三代ノ後裔ナリト  
 野中正和少輔只當邦親王ノ召應シテ始テ關東ト心下向シテ倉ニ移住セシカソノ子  
 野中務少輔只當邦親王ノ召應シテ始テ關東ト心下向シテ倉ニ移住セシカソノ子  
 テ信濃國ニ整居セリ其子太郎爲仁孫次郎只仁曾孫七代衛門當時マテカ  
 時文少田中武陸與守信春カ人トナリ孫七代衛門當時マテカ  
 世々武田コトタ記セリサレト其後ノ事蹟ヲ落ルハ武州小宮領テ利左衛門カ引テ  
 云々等ノコトタ記セリサレト其後ノ事蹟ヲ落ルハ武州小宮領テ利左衛門カ引テ  
 ナルチモ

新編武藏風土記稿卷之二十下終

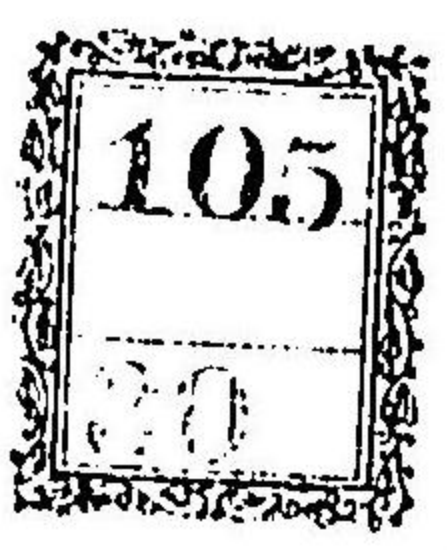
明治十七年四月十六日出版版權屆 壹快四册 定價金壹圓

內務省地理局出版

東京府平民  
 近藤 圭 造  
 深川區富岡門前町  
 七十番地

埼玉縣平民  
 根岸 武 香  
 武藏國大里郡青山村  
 聖香地

發行人





105  
30



